

新年のごあいさつ



松浦市長
友田 吉泰

明けましておめでとーうございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を顧みますと、一昨年から全国的に猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症については、市民皆さまのご協力によって順調にワクチン接種が進んだこともあり、ようやく感染者数の減少という状況になってまいりました。関係皆さまに心から感謝申し上げます。

今後、3回目のワクチン接種を行うこととしておりますが、引き続き感染予防対策を徹底しながら、市内経済の回復に向けて全力で取り組み、新たな成長・発展の基盤づくりをすすめてまいりたいと考えております。

このほかの主な出来事では、平成28年度に事業着手した「松浦魚市場再整備事業」が3月に完成し、4月から全面供用開始となりました。

5月には、スポーツの祭典、「東京2020オリンピック」開催を祝し、聖火リレーを実施しました。

また、8月には「東京2020パラリンピック採火式」を執り行い、同日、長崎県庁で開催された「東京2020

パラリンピック聖火フェスティバル集火・出立式」には、本市からも障害者代表の方が参加されました。

8月に開催された「全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会第60回全国高等学校なぎなた選手権大会」において、松浦高等学校なぎなた部が団体試合で5位入賞を果たすなど活躍してくれました。

また、「令和3年度長崎県高等学校駅伝競走大会男子の部」において、松浦高等学校陸上競技部が2年ぶり4回目となる優勝を果たしました。更に、長崎県代表として挑んだ昨年末の都大路での選手たちの懸命な走りは、郷土へ感動と元気をもたらすとともに、彼らの活躍によって、全国に「松浦」の名が知れ渡ったことは大変喜ばしい成果であり、嬉しく思っております。

一方、近年では毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。本市においても8月の記録的な大雨によって、幸い人的被害はなかったものの、市内各地で土砂崩れが発生し、家屋への被害や道路の通行規制など住民生活に大きな支障が及ぼす被害が発生しました。

さて、迎えた新しい年は、新型コロナウイルスの次の感染の波に備えなが

ら、「住み続けたい!」を実感できるまちづくりを進めてまいります。

まず、「松浦魚市場」については、EU向けHACCPの認証を取得し、水産物食糧供給基地としての機能を向上させます。

また、「アジフライの聖地 松浦」の知名度を更に向上させ、本市経済への波及効果を高めるための取り組みを進めます。

「対話」によるまちづくりを推進するため、地域版未来会議を継続するとともに、小学校区単位での協働によるまちづくり運営組織の設立に取り組み住民と行政との協働を促進します。

鷹島海底遺跡の木製いかり引き揚げについては、10月に実施することとしており、将来的な元寇船の引き揚げにつながることを期待しています。

新しい年も、市民の皆さまと共に、総合計画に掲げる「学び育てるまち」「誇れるまち」「仕事をつくるまち」「未来へ続くまち」「安心、幸せのまち」「皆でチャレンジするまち」の6つの将来像の実現を目指し、持続できるまちづくりに取り組んでまいりますので、ご支援並びにご協力をお願い申し上げます。

結びに、新年が皆さまにとりまして、健やかで輝かしい年となりますよう心から祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。



松浦市議会議長
久枝 邦彦

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお喜び申し上げます。また、日頃から、市政発展のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、平成28年度に着手した松浦魚市場再整備事業が完成し全面供用開始されました。また、長崎県高等学校駅伝競走大会男子の部において、松浦高等学校陸上競技部が2年ぶり4回目の優勝を果たし、12月26日に京都市で開催された全国大会に出場して健闘する雄姿を見せてくれました。

一方では、新型コロナウイルスが世界的に蔓延し、県内でも県独自の医療危機事態宣言、緊急事態宣言の発令、一部自治体においては、まん延防止等重点措置が適用されるなど、人々が制限された生活を送りました。また、8月秋雨豪雨により様々な災害に見舞われた年でもありました。コロナ感染の第6波が心配されていますが、今後とも安心して暮らせる松浦市であり続けるために、どうか市民の皆さまにおかれましては感染対策を怠ることなく、健やかな一年をお過ごし

いただきたいと願っております。

さて、近年の人口減少・少子高齢化社会の到来により、国も地方も大きく変革する中で地方の果たすべき役割や責務がますます重要となっております。このような中、市議会および各議員が果たすべき役割および責務の重要性もますます増大してきております。

今月末には議員定数を1名削減して16名となる市議会議員選挙が予定されており、議員構成にも変化があることと思いますが、市民の代表である市議会として、執行機関と切磋琢磨しながら、住みやすく暮らしやすいまちづくりの実現に向けて市議会一丸となって専心努力してまいりたいと考えております。

これからも市民皆さまのご意見を市政に反映させるべく尽力して参りますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が、市民皆さまと本市にとりまして、より良い一年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



オーストラリアマッカイ市長
ダレック・ウィリアムソン

明けましておめでとうございます。

マッカイ市にとって2021年は「回復」の年となりました。地域経済は、豊かな資源産業と、地方での暮らしを求め大都市から移住してきた住民によって活気づいています。

基金等を活用し、市内のいたるところで開発が進められています。その一つの「マッカイ市川岸開発事業」は、水辺の美しい景観が際立つ地域へ整備するもので、これにより観光地、企業誘致先としての本市の更なる魅力発信が可能となります。

このほかにも市と地域住民で力を入れている「パイオニア・バレー・マウンテンバイク・プロジェクト」は、ヤンガラ国立公園やクレディントン州有林を通過する100kmにおよぶマウンテンバイクコースを整備するもので、今後の進展が期待されています。

残念なことに2021年も国交は閉ざされたままであり、松浦の皆さまと直接的な交流はできませんでした。しかし、デジタルツールを使った交流ができていくことは素晴らしい事です。11月にマッカイ市で開催された「松浦体験イベント」

では、マッカイ市民へ向けた松浦市の紹介やメッセージ動画の上映、市民同士のテレビ電話を通じた交流が行われました。

参加者より「松浦の皆さんの温かさが伝わってきて良かった」との感想を受けており、イベントを企画してくださった松浦市国際親善協会の皆さまには感謝しています。

8月に開催した「日本語スピーチ・コンテスト」ではマッカイ市内の中高生が優れた発表を行い、ホーリー・スピリット校の12年生（日本の高校3年生にあたる）であるジェシカ・ドールさんが最優秀を獲得されました。

明るい兆しも見えています。マッカイ市におけるコロナワクチン接種率は80%を超えると見込まれており、順調に進めばクイーンズランド州においても海外からの渡航者への規制が緩和される予定です。そう遠くない未来にマッカイ市民が松浦市を訪れることも可能となるでしょう。松浦市の皆さまに再びお会いすることが楽しみでなりません。

結びに、松浦の皆さまのご多幸を心から祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。